

福島県立医科大学附属病院 再整備基本構想【概要版】

令和6年10月



I. 附属病院の役割



県内唯一の特定機能病院や各種拠点病院として、高度・高密度で専門的な医療の提供



政策的医療(救急医療や小児医療、産科・周産期医療、がん、災害時医療等)の実施

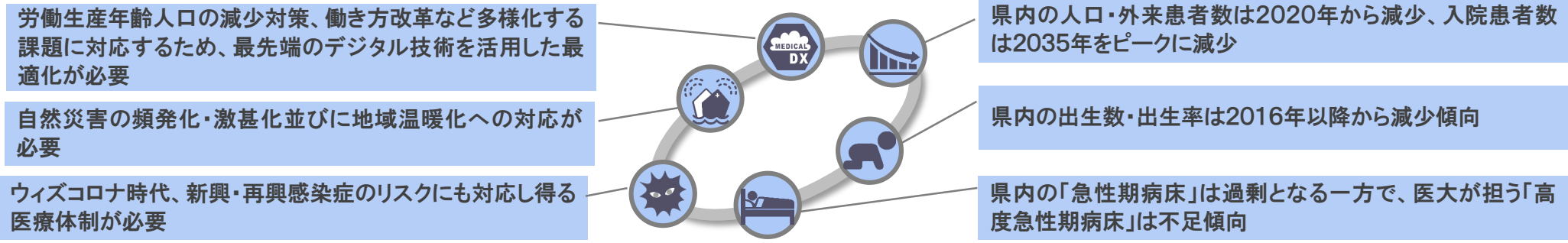


地域医療を支える医療人育成、医学・看護学・保健科学分野の研究と研究者の育成



保健医療の提供等を通して、医学・看護学・保健科学の発展に寄与

II. 附属病院を取り巻く状況



III. 附属病院の課題

医療提供

1. 老朽化・陳腐化・狭隘化への対応(竣工から37年経過の弊害)
2. 大学病院としての医療・教育・研究分野における施設の充実
3. 効率的・効果的な医療の提供や地域医療機関との機能分担の維持
4. 新病院棟と他施設との動線確保
5. 災害医療体制の円滑な運営(機能的な施設の再整備)
6. 社会情勢の変化への対応(生産年齢人口の急減)
7. 患者ファーストのホスピタリティ(プライベート空間の確保、動線の簡素化等)

教育・研究

1. 県民を支える医療人育成のための環境整備
2. 研修・実習環境の改善(研修機能の集約化等)
3. 医療技師の実習環境の整備(学生利用の執務室が未整備)

病院経営

1. 人口減少社会に対応できる強くしなやかな運営体制
2. 安定的な経営・収入基盤の確立
3. 高度で専門的な医療を提供し続ける病院経営

IV. 施設整備方針 CONCEPT

『環境の変化に適応し進化する大学病院』

高齢化の進展、人口減少社会の到来、多様化する医療需要など、大きな変動をみせる時代の潮流に適応をみせ、進化する特定機能病院として、常に、最先端の医療・教育・研究を追求し、県民に還元し続ける大学病院を目指す。

医療提供

- 特定機能病院の堅持
- 環境の変化に対応できる病床構造
- 外来機能の強化
- 最先端医療機器の導入
- 高度急性期に対応する手術室整備
- AI・ロボット・IoTを活用した医療提供
- チーム医療の推進

- 患者に寄り添った医療の提供
- 患者満足度向上に向けたサービス
- 患者サポートセンター機能の充実
- プライベート空間(無差額個室)の増
- 危機管理体制の強化
- 健診機能の整備検討

3つの
視点

- 臨床教育施設の充実
- 学生・研修医への実践的な
研修環境の整備
- 次世代技術を取り入れた研修施設
- 学生向けミーティングルームの整備
- 創薬と放射線医学の診断治療機能強化

教育・研究

- 持続可能な病院経営
- 最新デジタル技術を活用した
ワークフロー(仕事の流れ)の最適化
- 医療従事者に寄り添った環境整備
- 自動搬送ロボット導入による
働き手不足への対応

病院経営



V. 施設整備の概要

- 附属病院の将来患者推計や医療ニーズを見据えて、最適な病床を設定する

機能		整備前	再整備後(想定)
入院	病床数	778床	652～716床 (個室増床)
外来	最大患者数	(平均)1,532人/日	1,500人/日
手術	室数	14室 日帰り手術室2室	12～15室(機能向上) 日帰り手術室2室

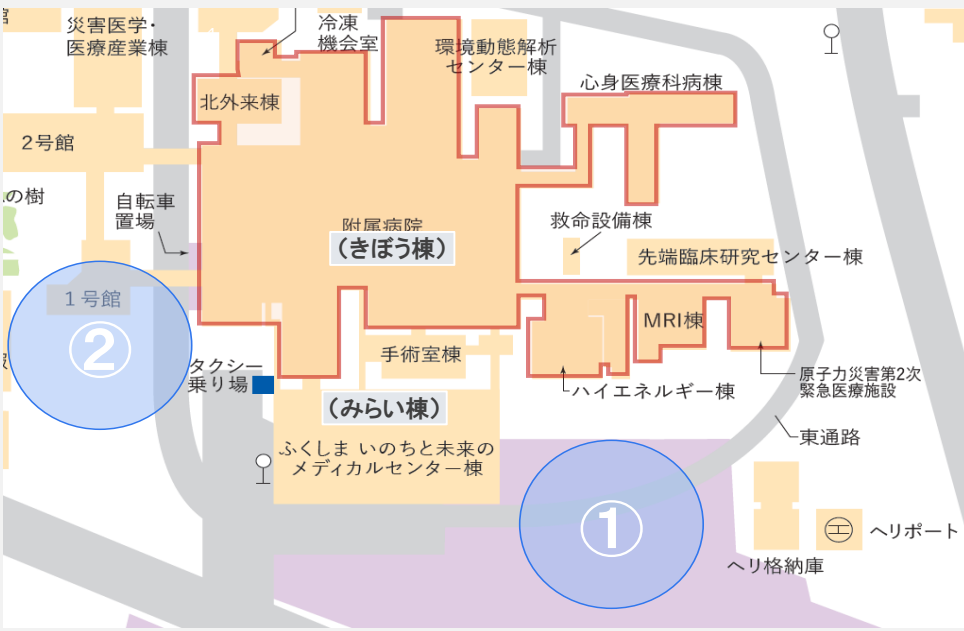
VII. 整備スケジュール

R12年度(2030年度)の開院想定

年度	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)
基本構想・基本計画	■								
基本設計・実施設計		■	■						
新病院棟建設				■	■	■	■		
開院							★		
解体・外構工事等								■	■

VI. 建設候補地

医大施設内における現外来駐車場(①)または現1号館(②)が建設場所の候補



基本計画の策定に向けて

- 病床数(個室数含む)、手術室数・手術室機能及び建設候補地は、附属病院に求められる医療機能・役割、患者・医療従事者・学生等の利便性や、病院経営への影響等を踏まえ、丁寧に検討していく
- 概算事業費(建設工事費、医療機器整備費、医療情報システム整備費、その他(物品移転・患者移送等))の設定は、建築資材費や労務費(人材不足や働き方改革による影響)の高騰等の動向を注視しながら、適切に検討していく